



男女共同参画推進室 Newsletter

男女共同参画推進本部・女性研究者共助支援事業本部・
女性研究者養成システム改革推進本部・キャリア開発支援本部

平成23年度男女共同参画推進活動

～基本方針の制定と4本部体制～

本学の男女共同参画推進室は、平成17年度に設置されました。二つの科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」（平成18年度）と「女性研究者養成システム改革加速」（平成22年度）の採択を経て、男女共同参画推進室は、平成22年7月、男女共同参画推進本部、女性研究者共助支援事業本部、女性研究者養成システム改革推進本部の3本部からなる組織になりました。大学全体として男女共同参画を推進する姿勢がより鮮明になりました。

平成23年5月には、本学のこのような活動を一層推進するために男女共同参画における基本方針が定められました。基本方針では、1) 女性人材育成の促進、2) 学生及び教職員の学習・研究・職業生活と私生活的両立支援、3) 教職員の雇用等における男女の均等な機会と待遇の確保、4) 男女共同参画社会形成のための意識改革、5) 男女共同参画推進体制の整備・強化が述べられています。

女性人材を社会に輩出することを男女共同参画推進の視点からとらえ、平成23年度科学技術人材育成費補助事業「ポストドクター・インターンシップ推進事業」に応募し採択されました。この事業を実施するための組織「キャリア開発支援本部」が4番目の本部として設置され、平成23年10月に、男女共同参画推進室は4本部体制になりました。4つの本部は連携をとりながら、独自の活動を活発に行っています。各本部の活動をこのNewsletterで紹介します。

学内外を問わず多くの方々の協力に支えられて、男女共同参画推進室は活動を続けています。今後も、何を求められ、何をしなければならないかを探り、適切に対応していきたいと思っています。

平成24年3月
奈良女子大学男女共同参画推進室長 富崎松代

男女共同参画推進室の概念図

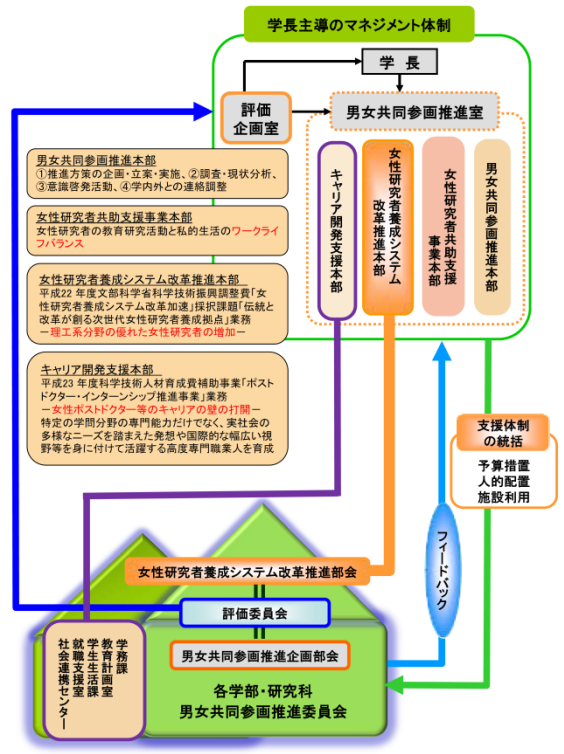
奈良女子大学における男女共同参画の基本方針

本学は、基本理念の第一に「男女共同参画社会をリードする人材の育成—女性の能力発現をはかり情報発信する大学へ—」を掲げ、教育・研究・社会貢献等のあらゆる場面で男女共同参画を目指し努力を重ねてきた。男女共同参画活動を一層推進するために、ここに男女共同参画の基本方針を定める。

- 1) 女性人材育成の促進
男女の対等な社会参画の実現に寄与する教育研究の充実を図り、男女共同参画の視点を踏まえた社会意識と職業意識の形成により、社会をリードする女性人材の育成を促進する。また、女性の生涯にわたる学習機会の充実を図り社会参画を促進する。女性研究者及び高度専門職職人の養成により社会の諸分野における女性の参画を促進する。
- 2) 学生及び教職員の学習・研究・職業生活と私生活的両立支援
学生及び教職員の個々の心身の特性とライフサイクルに応じた健康支援及び修学・就労支援に努め、学習・教育研究・職業生活と私生活的両立の推進を図る。
- 3) 教職員の雇用等における男女の均等な機会と待遇の確保
雇用における男女の機会均等、公平な待遇の確保に努める。ハラスメント防止等に努め、教育現場及び職場における人権の尊重に努める。
- 4) 男女共同参画社会形成のための意識改革
男女共同参画に関する認識を深め定着させるために、情報の収集と発信の充実に努め、意識啓発活動を推進する。
- 5) 男女共同参画推進体制の整備・強化
男女共同参画推進室を中心に学内の関係部局や他の関係機関・団体と連携し、学内外の男女共同参画の推進に努める。

男女共同参画推進室

平成23年10月改組



男女のジェンダーはコインの裏表 ―結婚と労働の関係式―

日時：平成23年10月25日（火）16:30～18:00

場所：生活環境学部E棟 E109講義室

テーマ：男女のジェンダーはコインの裏表
―結婚と労働の関係式―

講師：島津良子氏

（奈良女子大学大学院修了、文学修士、
奈良女子大学・立命館大学講師、
全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
近畿部会役員）

参加者：本学教職員・大学院生・学部生・一般
（72名）



【講演概要】

新憲法のもと男女平等の戦後教育を受けた第一世代である団塊の世代とその子供世代の「いまどきの若者」を中心に、女性ジェンダーと男性ジェンダーの関係、結婚と労働の関係について、種々のデータをもとに紹介いただいた。

現在定年退職期を経て老年にさしかかっている団塊世代は、高度経済成長という社会的基盤のもと「サラリーマンと専業主婦」という性別役割分担家族を形成した世代である。団塊の世代の結婚適齢期に相当する1975年は、女子労働力率が約46%と戦後最も低い値を示した年であり、島津氏は戦後家族の第一画期と位置づけている。専業主婦の出現は、家事労働を女性の無償労働として定着させることとなり、政治、経済に興味があるが「家庭のことは二の次」の夫と、「関心事は家庭内の諸問題」である妻を生み出した。

つぎに、団塊世代の子世代の結婚と労働の実態と結婚観について紹介いただいた。1975年を境に女子労働力率は上昇に転じ、男女雇用機会均等法が制定された1985年を境に島津氏は第二の戦後家族の画期と位置づけている。しかし、共働き率が増加を続けている現代にあっても、男性は長時間労働のために相変わらず家事に関与する時間は少なく、そのため家事の大部分を妻が負担している。そして、仕事と家庭の両立環境の不備により女性は出産を期に正規就労を断念せざるを得ない、女性労働者の過半数は低賃金の非正規雇用に甘んじなければならないという実態があるという。そして、意識の上でも男性は女性に対して口では「働いてよい」というが本音は家事に専念してほしい、一方女性は男性に自分より上であることを求める傾向にあるという。そのため、年収の高い女性と年収の低い男性の既婚率が低いという現状を生み出していることが述べられた。



最後に、「希望のもてる話」として、先進国では働く女性が多い程出生率が上がる、女性の管理職比率が多い企業に営業成績の上昇がみられる、正規労働者として女性が働く方が出生率が高いことなどのデータが紹介された。従来の長時間男性型労働ではなく、男女ともに仕事と家事が両立できる持続可能な労働の実現、すなわち家庭における男女共同参画の実現が少子高齢化問題を解決する鍵であることが述べられた。

【講演会アンケート結果】

講演会終了後に実施したアンケートには56名から回答があり、回答者の男女比はおよそ1：2、教員・学生比はほぼ同じであった。男女共同参画関連の講演会への参加回数が「初めて」と回答した34名のうち、24名が学生（学部生・院生）であった。講演内容については、54名が「理解できた」または「やや理解できた」と回答し、50名が講演内容を「今後の生活に取り入れたい」と回答した。自由記述欄には、「聞いたことのある内容ではあったが、データを示されると、再度、現状意識をせざるを得ない。最後まで目が離せないと感じさせる内容であった。働き続けることの真の意味を問い直してみたい」「これまでに知っていた話題、データも多かったが、男性に焦点をあわせたジェンダーの話やデータは初めてであり大変興味深かった」など多数の感想があり、「質問時間を残すように」「場所が狭い」などの要望も寄せられた。

奈良女子大学女性研究者共助支援事業本部との共催による 奈良女子大学・生物科学科-レスター大学国際交流企画 - 新春講演会と研究セミナー -

日 時：平成24年1月6日（金）15:00～17:30
場 所：総合研究棟（理学系A棟）A201教室
テーマ：奈良女子大学女性研究者共助支援事業
本部との共催による奈良女子大学・生
物科学科-レスター大学国際交流企画
- 新春講演会と研究セミナー -
講 師：田仲加代子氏
（英国レスター大学生化学教室講師）
共 催：奈良女子大学女性研究者共助支援
事業本部



【講演概要】

本学は2006年よりレスター大学と国際交流協定を結んでおり、本学生物科学科とCollege of Medicine, Biological Science and Psychologyは過去4年にわたり活発な国際交流を続けている。毎年5-8名の大学院生がレスター大学を訪問、レスター大学からは学部生やPh. D. の学生が本学に滞在している。教員の交流も活発に行われている。田仲加代子さんは、現在レスター大学の講師であるが、東京大学理学系研究科博士課程で学位取得後、スイスで3年間、英国で4年間ポスドクとして研究し、その後東京大学で講師をした後、2006年からレスター大学で研究を行っている。このような経歴をもつ田仲さんに、ご自分の仕事内容などを紹介していただきながら、修士/博士修了後の進路およびキャリア構築について語っていただいた。研究者としてこれまでの歩みを振り返りつつ、折々の悩み、喜び、進路を選ぶ中で何が必要で、どのように考えてきたのかなども話していただいた。仮説をたてて、それを実証する研究の面白さなど、研究の魅力を語りながら、学生たちにエールを送っていただいた。

講演の中では、しばしば学生たちに問いかけながら、研究者にもいろいろなケースがあることや、大学での講義の一端を紹介し、学生に質問して答えさせたりするなど、学生をよく惹き付けたお話であった。学生からは、英語をどのように習得したか、などの質問があり、英語で心配することはない、何とかかなるとのお返事に学生も少しほっとした様子であった。

講演の終了後、休憩時間中に自由な質疑をはさんで、研究セミナーをしていただいた。ご専門は、酵母の減数分裂期に生じる微小管構造のダイナミックな再編成の仕組みに関する研究である。減数分裂の間に起こる染色体の再分配機構は生命の本質と言ってもよい出来事である。体細胞分裂と減数分裂の微小管重合の動きを比較しながら、酵母の減数分裂の特定の時期に生じる微小管重合がどのような分子メカニズムによるのか、見事な電子顕微鏡による写真や顕微鏡のライブ映像を見せながら、その研究成果を語っていただいた。最後に、この研究が多くのグループとの共同作業の結果であることを述べ、いかに多くの研究者や大学院生によって研究が支えられてきたのか、人と人のつながりが大事であることをお話しになった。学生が将来の様々な可能性を考える上で有意義な講演会になったと思われる。

国の研究資金制度の活用について ～外部資金獲得の促進に向けて～

日 時：平成24年1月26日（木）15:00～16:30

場 所：総合研究棟（理学系A棟）1階 理学部会議室

テーマ：国の研究資金制度の活用について
～外部資金獲得の促進に向けて～

講 師：塩満典子氏

（独立行政法人科学技術振興機構（JST）
科学技術システム改革事業推進室長）

参加者：本学教職員・学生・学外者（約30名）



【開催趣旨】

本学では、第2期中期目標に基づき、中期計画「外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置」を定め、研究助成関係の公募情報を学内に周知し、積極的応募を促進するとともに、研究成果やシーズなどの学外への広報を強化し、受託研究費、奨学寄附金などの外部資金の獲得を促進としています。

本学の平成23年度の科学研究費補助金新規課題の採択率は37%であり、昨年度より9%近く上昇しました。しかし、大学を巡る環境が厳しさを増すなかで、充実した研究活動を目指すために、研究者自らが研究費を獲得する努力を続けなければなりません。

塩満典子氏は、科学技術振興機構の科学技術システム改革事業推進室長を務められ、「研究資金獲得法－研究者・技術者・ベンチャー起業家へ－」（丸善）の著者のお一人でもあります。本講演で示される情報を参考にして、さらに多くの研究者に外部資金の獲得を目指していただきたい。

【講演概要】

塩満氏の講演は、先ず政府及び文部科学省の競争的研究資金についての概要説明の後、「科学技術戦略推進費」、「テニュアトラック普及・定着事業」、「ポストドクター・キャリア開発事業」、「女性研究者研究活動支援事業」等の説明があり、特に、本学が未申請の「テニュアトラック普及・定着事業」への積極的な応募の勧めがあった。さらに、「戦略的創造研究推進事業」のチーム型「CREST」及び個人型「さきがけ」研究と「科学研究費補助金」をとりあげ、どのような申請書を作成すれば採択率を上げることができるか、申請書の項目を具体的にあげてその戦略方法を示された。

講演時間は約50分であり、その後、質疑応答が行われた。文部科学省が募集する競争的資金、特に新規事業が公募される際の詳しい情報をどのように得ることができるか等、活発な意見交換がなされた。また、科学研究費補助金を申請する場合、若手研究から基盤研究等へ移行する際の留意点等についても活発な質疑応答があり、予定していた1時間30分の講演会を終えた。



地域貢献活動

「知る・学ぶ・伝える equality」事業

男女共同参画の根幹であるequality（平等＝全ての人々が等しく尊重されること）の実現を目指し、「幸せに生きるためのヒント」と題した参加型の5回連続講座を本学で開催した。9月から1月の毎月1回土曜日の午後に、ありのままの自分を好きになり心を元気にするための“秘訣”や、お金やモノからは得られない“本当の豊かさ”について、人権関連分野で活躍する講師や留学生に楽しく語って頂いた。参加者お一人おひとりがご自身の生活を心豊かで幸せなものにするために出来ることや、社会のあらゆる場面に存在する偏見・差別をなくし、安心して平和な気持ちで生きられる環境をつくるために出来ることを講座の中から見つけ、身近な人々と分かち合い、日常生活の中で実践して頂くことを目的とした。女性研究者共助支援事業本部の協力を得て、毎回の講座で無料託児サービスを提供した。



- ・ どん底からの独立物語 世界一貧乏な社長?! (9月17日)
講師：佐々木妙月氏 (情報の輪サービス (株) 代表)
- ・ 自分を好きになることから始めよう! (10月8日)
講師：金香百合氏 (ホリスティック教育実践研究所所長)
- ・ デートDVから学ぶ「非権力的な関係」(11月19日)
講師：伊田広行氏 (立命館大学大学院非常勤講師)
- ・ 介護について考え、語り合い、出会うための“ネタ帳”
(12月10日)
講師：中田ひとみ氏 (性と生を考える会代表、訪問看護師)
- ・ 私が尊敬する祖国の女性
～『自信は幸せの素!』&『民族の誇りを取りもどす闘争』～
(1月21日)
講師：テン・ポー・リン氏 (奈良女子大学理学部)
グズマン・マリア氏 (奈良女子大学生活環境学部)



地域講座（社会連携センター）

『本学で、奈良で学んだ人が奈良に還元する、講師も生徒も学ぶ地域生涯学習』として、地域密着型の講座（“地域講座”）を社会連携センターが今年度開講した。男女共同参画推進室は、本学・奈良出身の女性の多様な生き方・働き方に触れることが出来るこの地域講座シリーズに共催した。

- ・ 奈良きたまちの近代建築
～住まいを訪ね歩いた取材の成果報告～ (11月5日)
講師：鈴木遥氏 (作家、奈良女子大学卒業生)
- ・ インドの舞踏世界を探る (12月11日)
講師：柳田紀美子氏 (インド古典舞踊家、奈良女子大学非常勤講師、奈良女子大学卒業生)
- ・ タイ王国独自の伝統医学「タイ式マッサージ」に学ぶ
～健康促進、免疫力アップ、さらには 脳のリラックスまで～ (2月4日)
講師：中田晃愛氏 (タイ古式マッサージ常世tocoyo 奈良、奈良女子大学卒業生)
- ・ パソコン講座
— Microsoft Word編 — (2月29日)
講師：藤野千代氏 (奈良女子大学社会連携センター 特任助教)



女性研究者共助システムの活動

平成18年度～平成20年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」採択期間終了後も大学の重要な事業と位置付け、女性のライフサイクルに配慮した教育研究環境の整備・拡充を図っています。

教育研究支援員制度

出産・育児・介護等に関わる女性研究者の教育研究活動の支援のため主に博士後期課程修了者を教育研究支援員として採用し、支援者と被支援者双方のキャリア形成、キャリア復帰等のチャレンジ支援・再チャレンジ支援に寄与することを目的として開始した制度である。平成21年4月以降、本学独自の経費で実施している。

平成23年度本制度利用の状況

利用女性教員数 5月～10月 7名,
11月～3月(予定を含む) 7名
支援員延べ人数 12名
支援員配置時間平均 13時間(／教員1名)

サポーター養成講座

子育て支援システムを支障なく運営するために、安全で信頼のおけるサポーターを学内外で確保し、その質を高めていくことが最重要課題である。本年度は、サポーターとしての基礎知識を提供するために7回「基礎講座」を開講(この他に個別に3回開講)した。この講座を一回受けることで、サポーター登録を可能としている。またサポーターとしての能力を高めていただくために、9月以降に以下のような「ブラッシュアップ講座」を開講した。①子どもの肥満とやせー生活習慣病との関連ー ②「伝わる聞き方話し方」ー支援力を上げるコミュニケーションスキルー ③認可外保育園ってどんなところ？ー奈良こども館での講義と保育体験ー ④からだコミュニケーションのすすめ ⑤子どもの応急手当 である。また、この他にサポーター間の親交とスキルアップを兼ね、サポーターだけを対象として「絵本」をテーマとした勉強会を企画した。ブラッシュアップ講座の参加者は毎回8名程度であるが、今年度はじめて開講した②の講座では19名の受講者があった。



このページ掲載の活動についての問い合わせ先:
奈良女子大学女性研究者共助支援事業本部
Tel/Fax 0742-20-3344
URL <http://shien-nara-wu.net/>
e-mail shien@cc.nara-wu.ac.jp

子育て支援システム

学童保育後等の子どもの送迎・預かり支援を受けたい本学の学生・教職員(非常勤職員等を含む)と子育て支援を志す者(サポーター)を組織化し、学業・職業と出産・育児等を両立させるための支援を行うことを目的として構築したシステムである。各利用者の要望にあう複数名のサポーターが選出され、共助サポーターとなる。利用者は、主にWebシステムの「ならっこネット」を通じて共助サポーターに支援依頼を行い、支援が実施される。支援依頼は24時間可能、支援時間帯は7:30～22:00である。保険にも加入し、迅速・確実・安心のシステムである。

平成24年1月現在、登録利用者数34名(支援される子どもの数47名)、登録サポーター数50名と、登録数は今年度大幅に増えた。本年度「ならっこネット」を利用した依頼は月15～20件あり、25～30件に及ぶこともあった、また、シンポジウムや講演会開催時の託児(イベント託児システム)の本格運用を開始した。更に、附属小学校、附属幼稚園での一時預かりの試行を行なっているが、利用希望者も多く好評である。

母性支援相談室

総合研究棟H棟4階にある母性支援相談室では、2名の母性支援カウンセラーが育児・介護相談、及び、思春期から更年期までの女性の健康相談に応じている。平成18年11月の相談室開設以来、累計相談件数は560件以上である。昨年度より、学生生活課によって管理運営されている「キャリア形成支援システム」を通じての育児・介護相談への対応策の検討も開始し、相談体制の充実を図ることとしている。

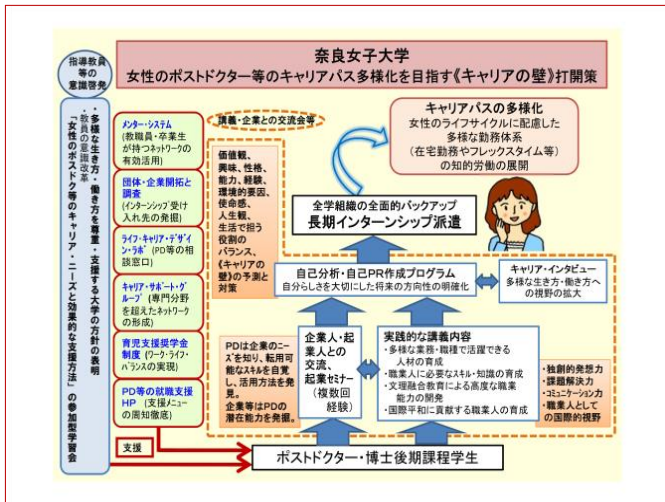
平成23年度その他の活動

・社団法人佐保会と協力して、卒業生を対象にしたキャリア形成に関する調査内容のデータベース化作業を完成させた。
・久保田優教授(生活環境学部)主催のキャリアデザイン・ゼミナールに協力し、「子育て支援システムの果たす役割」と題して講義をした。
・地域貢献事業equality講座「幸せに生きるためのヒント」全5回に協力し、託児を行った。
・「ならっこネット通信」(メルマガ配信)4回、「サポーター通信」を2回、「ならっこニュース」を4回発行した。



キャリア開発支援本部の活動

文部科学省の平成23年度科学技術人材育成費補助事業（ポストドクター・インターンシップ推進事業）の実施機関に選定され、11月からキャリア開発支援本部が活動を始めました。博士号取得後10年程度までのポストドクターや博士後期課程の学生を、一般企業や団体で活躍できる職業能力の高い人材として育成し、社会に送り出すシステムの構築が目的です。



企業との交流会

3月6日、大阪のマテックス株式会社から幹部2人を招いて開催した。中小企業の魅力に焦点を当てた講演を聞いた後、ポストドク3人が研究テーマや自分の持ち味などについてプレゼンテーションし、講評を受けた。24年度はノーベル賞受賞者を出した企業との交流会を予定している。

メンターシステム

奈良女子大学創立100周年記念事業アンケートに協力した佐保会会員約740人に要請して、支援者ネットワーク（メンター・システム）を構築中。自分の経験、後輩へのアドバイス、企業紹介などを記入した支援データ票が続々返送されてきている。支援データ票はH301で閲覧できる。

活動拠点はH301

キャリアコーディネーター3人（24年4月から4人）と業務補佐員1人が事業参加者向けニュースレターなどの情報発信、イベント企画、企業・団体調査と交渉、事業参加者との個別相談・アドバイスなどを行っている。クラウド・コンピューティングを導入し、事業参加者ひとりひとりにポートフォリオスペース（データスペース）を無料で提供。お勧め図書をそろえたキャリア開発文庫も設置。

開講科目

23年度は以下の科目を開講した。

- 自己分析セミナー＝西川桜子講師（1月10日～2月28日までに8回）
- キャリアセミナー（ビジネススキル）＝申吉浩講師（2回）、伊藤統明講師（3回）、麻生川静男講師、中登俊幸講師（12月20日～2月13日）
- ワークスタイルセミナー＝櫻井祐子講師、中田紀子講師、麻生川静男講師、中山康子講師、藤野千代講師（12月15日～2月1日）

24年度はキャリアセミナー（国際貢献）（職業能力開発）も開講。

キャリアインタビュー

各界で活躍している人にインタビューして経験を学び、自分のキャリア形成に役立てるのが目的。23年度は中田紀子さん（エッセイスト）と中山康子さん（東芝研究開発センター参事）にセミナー後、5人がインタビューした。話を聞きたい人を訪問してインタビューする場合、規程の範囲内で交通費を支給する。

平成23年度その他の活動

▽事業説明会（11月30日、参加者75人）



▽次のシンポジウム等に参加

- ポストドク事業シンポジウム（12月1日、東京）
- 若手研究人材養成のための担当者連絡会（1月5・6日、広島）
- 奈良経済同友会との交流・懇親会（1月16日）
- 学内合同企業説明会（1月28日）
- 博士・ポストドク・キャリアフォーラム（2月9日、京都）
- 博士人材キャリアフォーラム2012（2月22日、京都）

▽長期インターンシップ派遣審査会（3月15日）

▽メールによる情報発信（PDISニュースレター、2月末までに18通）

▽ライブ・キャリア・デザイン・ラボの開設

▽ポストドクター育児支援金の開始

このページ掲載の活動についての問い合わせ先：
奈良女子大学キャリア開発支援本部

Tel/Fax 0742-20-3572

URL <http://www.nara-wu.ac.jp/career/>

e-mail career-k@cc.nara-wu.ac.jp

女性研究者養成システム改革推進本部の活動

若手女性研究者養成システム:平成22年度は理学系4名(准教授1名、助教3名)と工学系1名(助教)を、本年度は理学系1名(助教)を採用し、研究費の支援を行った。

若手研究者サポートシステム:平成22年度、23年度に事業計画に基づいて採用された助教に対し、数名の教員からなるメンターチームを構成し指導助言を行った。各部局の評価委員会、全学組織の評価企画室を経由するPDCAサイクルに従って、平成22年度のメンターチームの評価が実施された。各助教はその研究活動を着実に進めていること、指導助言が適切に行われていること等が確認され、またサポートシステムの改善も図られた。

研究スキルアップシステム:学内公募により、既在籍理工農系女性教員に対し、国際シンポジウム、国内学会の参加経費及び英語論文校閲経費の支援を行った。

本学の取り組み紹介 次のシンポジウムに参加し、本学の取り組みを紹介した。

- ・女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム「女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現～「モデル的取組」から「研究とライフイベントの両立」へ～」(平成23年11月1日、筑波大学東京キャンパス文京校舎(東京都))
- ・第9回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(平成23年10月31日、筑波大学・大学会館)

上記活動について問い合わせ先:女性研究者養成システム改革推進本部

<http://www.nara-wu.ac.jp/j-kaikaku/index.html> j-kaikaku@jimmu.nara-wu.ac.jp

数値で見る本学の現状 (平成23年5月1日現在)

役員 ()は非常勤で内数				大学教員					附属学校教員			その他職員		
	学長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	計	副校長	教諭	計	課長	一般職員	計
男	1	2	1(1)	72	62	1	4	139	2	35	37	8	54	62
女	0	2(1)	1(1)	19	18	4	22	63	2	31	33	1	29	30
計	1	4(1)	2(2)	91	80	5	26	202	4	66	70	9	83	92
女性比率(%)				20.9	22.5	80.0	84.6	31.2	50.0	47.0	47.1	11.1	34.9	32.6

本学が独自に実施している

主な女性研究者支援

ポジティブアクション

- ・女性研究者養成加速支援経費
- ・若手研究者養成支援経費

女性教員に対する支援員等の配置

- ・教育研究支援員制度
- ・博士研究員やテクニカルアシスタントの配置

大学院生・大学院修了者に対する支援制度

- ・若手女性研究者支援経費制度

その他の活動

訪問調査

次の研究機関による男女共同参画推進等に関する訪問調査が実施された。

- ・室蘭工業大学(平成23年11月4日)

活動内容紹介

研究会等で活動内容を紹介した。

- ・「KNS in 奈良女子大学」(平成23年7月9日)

- ・第3回公開講演会「子ども社会支援のあり方を考える」(平成23年11月3日)

育児介護リーフレットの改訂版

- ・HPに掲載(平成24年1月31日)

学内の子育て支援環境整備状況

- ・子育て支援システム
- ・ならっこルーム(一時託児専用施設)
- ・フィッティングルーム(授乳・搾乳室として使用可能)12カ所
- ・ベビーシート(多数の手洗いに設置)
- ・母性支援相談室
- ・子育て応援MAP



編集・発行:奈良女子大学

男女共同参画推進室

連絡先:奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742-20-3220 Fax 0742-20-3205